

一、次の文章を読み、以下の問いに答えなさい

西暦1000年から1900年まで、ずっと3万人規模(きぼ)だった地域が、その後の100年で10万人になったとする。さらに2000年から100年かけて、かつてと同じく3万人の人口規模に戻るとしても、その①人口構成はかつてとはまったく違ったものになるはずだ。かつての3万人は若い人が多く、高齢者が少ない人口ピラミッドだったはず。ところが、これから迎える人口3万人は若い人が少なく高齢者が多い人口ピラミッドになる。したがって、単純に昔へ戻ればいいというわけではない。I が多い3万人でどう楽しく生きていくか。若い人と高齢者がそれぞれの持ち味を活かして幸せに生きていくことができるか。これは、ある程度過去に学びつつも、②まったく新しい生き方のビジョンが必要になる時代だといえよう。

そのヒントは、すでに日本の中山間離島地域でいくつか誕生している。IIたちがポツポツと都会からア田舎へ移動し始めているのだ。(①)、「まさかこんな場所で?」と思うような山奥で、ポツリとカフェを経営している若者がいる。離島で雑貨屋を経営している夫婦がいる。そんな人たちの話を聞いていると、これまで気づかなかつたことを気づかされることが多い。(②)、そんな田舎でカフェや雑貨屋をやってお客様は来るのか、ということが気になる。(③)「来る」そうなのだ。田舎でカフェがオープンしたという噂(うわさ)は一気に広がる。近隣の町村にまで広がる。地元の若い奥さんや高齢者などが、「わがまちにもカフェができる」と喜びイ勇んで来店する。都会から友達が遊びに来たときにも、田舎の良さを活かしたウ青年氣(うなが)のいいカフェに連れて行きたいと思うらしい。友達が友達を連れてカフェを訪れる。毎月、おしゃれなエ雑誌が読めるというのもありがたいそうだ。③こうした理由から、田舎のカフェには定期的にお客様さんがオ訪れる。東京の渋谷でひとつのかフェがオープンしてもそれほど話題にならないかもしれないが、田舎に農家を改装したカフェができるという噂(うなが)は多くの人に影響を与え、来店する気持ちを促すことになる。その結果、カフェで地域の人たちと偶然会うことになることも多い。そこでいろいろ話をするうちに、自分たちの将来について、集落の将来、まちの将来についても話し合うことがあるという。中山間離島地域でワークショップをすると、1回目と2回目との間に明らかにどこか別の場所に集まってまちの将来について話し合ってきたな、と感じるようなチームと出会うことがある。よくよく話を聞いてみると、チームの何人かが偶然カフェに居合わせて、いろんな話をするうちに「そういうえばこの前のワークショップのときの話だけさあ」という話題になるそうだ。町役場に集まる公式なワークショップの場以外に、参加者たちがIIIに集まって話し合うカフェでの会話が、結果的にまちづくりの話し合いを加速させることになっているというわけだ。

こうしたカフェを経営する人に聞いてみると、「儲かりはしないけど生活はしていく」と答える人が多い。

問一 太線部ア～オの読みがなをひらがなで答えなさい。

問二 (①)～(③)に入る語として適切なものを選び、記号で答えなさい。  
ア ところで イ ところが ウ まず エ たとえば オ また

山崎亮『コミュニティデザインの時代』

問三 □ I □・□ II に入る言葉の組み合わせとして適切なものを選び、記号で答えなさい。

- |   |   |     |    |     |
|---|---|-----|----|-----|
| ア | I | 高齢者 | II | 若者  |
| イ | I | 高齢者 | II | 高齢者 |
| ウ | I | 若者  | II | 高齢者 |
| エ | I | 若者  | II | 若者  |

問四 傍線部①「人口構成はかつてとはまったく違つたものになる」とありますが、どのようになると書かれていますか。本文中から二十字で抜き出しなさい。

問五

傍線部②「まったく新しい生き方のビジョン」とありますが、中山間離島地域では具体的にどのような生き方をしている人がいると述べられていますか。本文中から二箇所、十二字でそれぞれ抜き出しなさい。

問六

傍線部③「こうした理由から」とありますが、どのような理由からでしょうか。適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 若い奥さんや高齢者が喜び勇んで来店するという理由。  
イ 田舎であってもおしゃれな雑誌が読めるという理由。  
ウ 都会の友達に連れていくともらいたいと頼まれるという理由。  
エ 来店した人が友達を連れてまた訪れるという理由。

問七

□ III に入る言葉として最もふさわしいものを記号で答えなさい。  
ア 不公式 イ 不公開 ウ 非公式 エ 非公開

問八

本文のまとめとして適切なものには○、そうでないものには×と答えなさい。  
ア 人口が減ることが予想されるため、人口を増やすことを意識するべきだ。  
イ 田舎から都会ではなく、都會から田舎へ移動する生き方も考えるべきだ。  
ウ 地域の人々は自分たちの将来だけでなく、地域の将来についても考えている。  
エ 都会から離れた田舎ではカフェ等を経営することが難しく、改善を考えるべきだ。

二、次の文章を読み、以下の問いに答えなさい

主人公の慎一と春也は森の中にある秘密の場所に鳴海を呼んだ。以下の文は、春也と鳴海で秘密の場所のシンボルである「ヤドカミ様の岩」を飾ろうとしている場面である。

「これ使う?」  
「なんて?」  
「鍵でテープの端を押さえて、あぶればいいんじゃないかと思つて」

「ああ、そやな」  
鳴海が手渡した車の鍵を使い、春也はさらに（あ）と作業を進めていった。

①胸に、だんだんと湿った砂が溜まつていく。その砂は、自分が春也の手際に驚いてみせたり、鳴海の賞賛に同意するたびに嵩を増していった。

A 「思つたよりええやん」

夕陽を受けてオレンジがかつた岩を、春也は満足そうに眺めた。岩は三色のリボンで綺麗に飾り付けられていた。アイゼンに二人でつくつた※シユロ紐の注連縄だけは、そのまま残してある。

B 「けつこう遅くなつちやつたね」

鳴海がイハイゴの太陽を振り向いた。

C 「今日はもう帰ろうよ、暗くなるから」

D 「そやな」

地面に散らばつたテープの切れ端を、慎一と春也でウヒ口つた。鳴海は自分の持つてきたハサミをバッグに仕舞い、それからしばらく地面を（　い　）と見回していたが、やがてその顔にふとエコマつた表情が浮かんだ。

「ねえ、あたしの鍵、知らない？」

「さつき返さへんかったか？」

「もらつたつけ」

どちらも、同意を求めるように慎一のほうを向いた。慎一は黙つて首を横に振つた。

「ほんなら、とりあえず探そか」

「ごめんね」

三人で背中をこごめ、地面を覗き込みながら岩のまわりを確認した。鳴海の鍵はどこにもない。それぞれ自分のポケットやバッグの中を見たり、さつき集めたゴミの中を搔き回してもみたが、やはり出てこなかつた。そうしているうちに、太陽がさらに低くなり、地面の小石が尖つたぎざぎざの影を伸ばしあじめた。

「もういい、諦める」

夕焼けた空を、鳴海が不安げに振り向いた。

「②そういうわけにいくかいな」

責任を感じているらしく、三人の中で春也が一番懸命に探していた。

「ぜつたい岩のまわりにあるはずなんやから」

「でも、暗くなつちやう。つぎ来たときに見つかるかもしれないし、もし見つからなくつても大丈夫だよ。ふだん使つてないスペアキーだから、きっとお父さんにもばれないし」「あかんて」

振り向きざま春也は言つたが、すぐにまた地面に顔を戻した。

「でも、あれやで。二人は先に帰つてもええで。俺、一人で探すし」

③地面を睨みつける横顔は真剣そのもので、両目には焦りが浮かんでいた。あちこちに

生えていたヒトリシズカの葉の下まで、春也は覗き込んだので、両手も両膝もすっかり土で汚くなつていて、その様子を鳴海はしばらく黙つて見ていたが、やがて耐えきれなくなつたようになつた。春也の背中へ近づいていった。

「いいつて、もう」

春也のTシャツの肩を、鳴海はつまんだ。

「ほんとにいいから」

春也は鳴海に顔を向けたが、ふでくされたように目をそらした。

「ほんなら明日、また探すわ」

鳴海は黙つて頷いた。

「かんにんな」

風に、夜の匂いがオマジりはじめていた。西の空は（う）赤らんで、ヤドカミ様の岩は影絵に変わり、反対側を見ると、海の向こうには白い月が（え）と浮かんでいる。

④急いでいたせいもあり、山道を下りて、いるあいだはほとんど誰も口を利かなかつた。いつもよりずっと短い時間でガドガドの裏まで行き着いたとき、三人ともすっかり息が上がりついた。空が暗くなりかけていたので、はずんだ息のまま短く声を交わして三人は別れた。

家路をたどつていると、幼稚園で盗んだ白いクレヨンのことがまた思い出された。暗さを増していく行く手の道を睨みつけたまま、慎一はポケットに右手を差し入れた。

鳴海の鍵が、指先に触れた。

道尾 秀介 『月と蟹』

※ シュロ紐の注連縄 … ヤシ科の木の紐で災いを払う結界として縄を張られる。

問一 太線部ア～オのカタカナを適切な漢字に直しなさい。

問二 （あ）～（え）に入る言葉として適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、記号は一度しか使用してはいけません。

ア のろのろ イ うつすら ウ キよろきよろ  
エ まざまざ オ いよいよ カ てきぱき

問三 [A]～[D]はそれぞれ誰の発言ですか。適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア	A	A	春也	B	鳴海	C	慎一	D	慎一
イ	ウ	イ	春也	エ	鳴海	エ	鳴海	ウ	春也
エ	ア	エ	春也	エ	慎一	ア	慎一	エ	春也
イ	ウ	イ	慎一	エ	春也	エ	慎一	エ	春也
エ	ア	エ	慎一	エ	慎一	ア	慎一	エ	春也

問四 二重傍線部「やはり出てこなかつた」とありますが、この文の主部として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。  
ア 鳴海の鍵は  
イ 自分のポケットや  
エ さつき集めたゴミの中を  
エ 携き回してもみたが

問五 傍線部①「胸に、だんだんと湿った砂が溜まつていく」とありますが、これは慎一のどのような気持ちを表していますか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。  
ア 春海に良く思われている春也をほこらしいと思う気持ち。  
イ 春也が鳴海を意識して行動していると、あわれむ気持ち。  
エ 相手に合わせて話をしている自分に息苦しく思う気持ち。

問六 傍線部②「そういうわけにいくかいな」とありますが、春也はどうすることができるのでしょうか。本文中の言葉を用い、十五字以内で答えなさい。

問七 傍線部③「地面を睨みつける横顔は真剣そのもので」とありますが、その理由を次のようにまとめる時、□に入る言葉は何ですか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

春也は鳴海から借りたものをなくしたと考へ、□ため真剣であつた。

問八 傍線部④「急いでいたくなかった」とありますぐ、急いでいた以外に口を利かなかつた理由として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。  
ア 慎一が鍵を隠し持つてることを二人に知られてしまつたから。  
イ 三人はなぜ鍵が見つからなかつたのか不思議に思つていたから。  
ウ 鳴海はあたりが暗くなつていてることに不安をいだいていたから。  
エ 春也は慎一が鍵を持つてているのではないかと疑い始めていたから。

問九 本文の説明として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「これ使う?」「なんて?」のように「?」を文章でたくさん使うことによつて、子どもが結論を出すことの難しさをわかりやすく表現している。  
イ 「黙つて」という言葉が何度も使われており、静かな場所にいることが強調される  
と同時に、子どもたちの口数の少なさがあらわされている。  
ウ 「影絵」「白い月」のように自然の描写を文章にちりばめることによつて、子ども  
の自由な発想が効果的にえがかかれている。  
エ 「暗さを増していく行く手の道」のように風景描写と鍵を隠し持つた慎一の暗い心  
情を重ねて表現している。